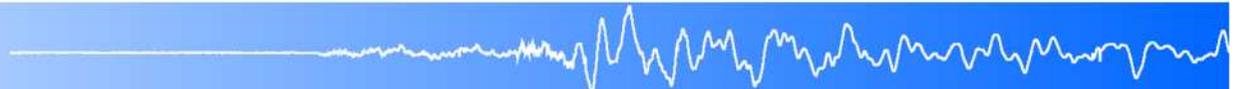


資料5

長周期地震動に関する情報のあり方について



(空 白)

長周期地震動に関する情報のあり方について

(長周期地震動に関する情報検討会平成28年度報告書)

長周期地震動に関する予測情報について、第8回緊急地震速報評価・改善検討会での議論を踏まえて、長周期地震動に関する情報検討会(座長:福和伸夫名古屋大学減災連携研究センター長)において検討を進めてきた。

今般、検討の成果が「長周期地震動に関する情報のあり方について(長周期地震動に関する情報検討会平成28年度報告書)」(概要:別添1、本文:別添2)としてまとまったので報告する。

別添1:「長周期地震動に関する情報のあり方について(長周期地震動に関する情報検討会平成28年度報告書)」(概要)

別添2:「長周期地震動に関する情報のあり方について(長周期地震動に関する情報検討会平成28年度報告書)」

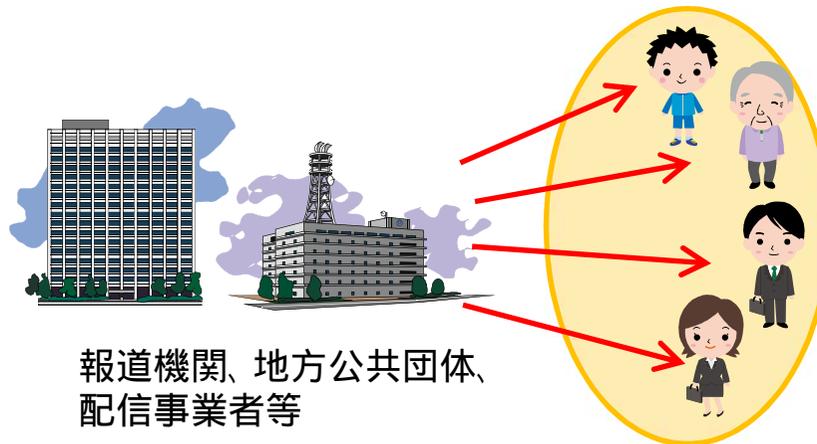
長周期地震動に関する予測情報のあり方の概念図

気象庁 



緊急地震速報 (警報)

長周期地震動階級3以上が予想される場合にも
緊急地震速報 (警報) を発表



震源情報・
揺れの予想

個々の高層ビル等の多様なニーズに対応する
予測情報が必要

予報事業者等



建物の高さ、構造、
地盤のデータ等

予報

高所作業者への情報提供

ビルの在館者に対する情報提供

様々な情報提供



各事業者が連携して、予測技術、利活用方法等の検討・検証
を行う「多様なニーズに対応する予測情報検討WG」を設置

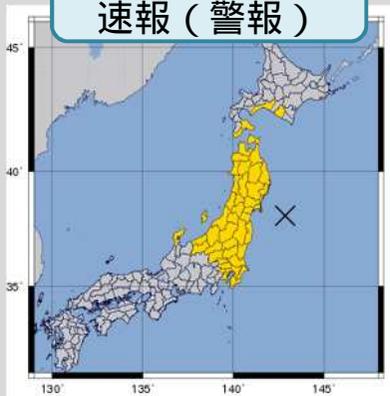
警戒・注意を呼びかける予測情報について

有識者会議での検討により、長周期地震動に関する予測情報等のあり方についてとりまとめ。

長周期地震動階級3以上が予想される場合にも 緊急地震速報（警報）を発表

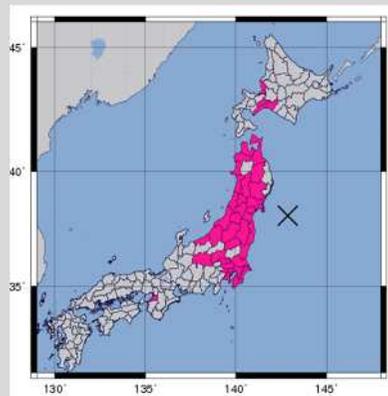
【イメージ】

従来の緊急地震速報（警報）



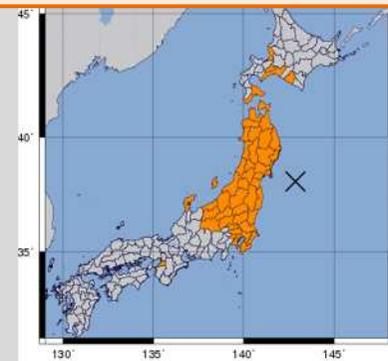
最大震度が5弱以上と予想された場合に震度4以上が予想される領域

or



長周期地震動階級3以上が予想される領域

長周期地震動を考慮した新しい緊急地震速報（警報）



いずれかを満たす領域に警報を発表

長周期地震動階級

・高いビルでの長周期地震動による揺れの大きさは、震度ではわからないため、「長周期地震動階級」という新たな指標をH25年3月に策定。

階級1

- 室内にいたほとんどの人が揺れを感じる。驚く人もいる。
- ブラインドなど吊り下げものが大きく揺れる。



階級2

- 室内で大きな揺れを感じ、物につかまりたいと感じる。物につかまらなさと歩くことが難しいなど、行動に支障を感じる。
- キャスター付きの家具類等がわずかに動く。棚にある食器類、書棚の本が落ちることがある。



階級3

- 立っていることが困難になる。
- キャスター付きの家具類等が大きく動く。固定していない家具が移動することがあり、不安定なものは倒れることがある。



階級4

- 立っていることができず、はわないと動くことができない。揺れにほんろうされる。
- キャスター付きの家具類等が大きく動き、転倒するものがある。固定していない家具の大半が移動し、倒れるものもある。



多様なニーズに対応する予測技術や情報利活用のイメージ

